

TOPICS

大宮駅グランドセントラル ステーション化構想

さいたま市の「都心」である大宮駅は北海道・東北・上越・北陸新幹線の発着駅であり、東京圏北部の交通の要衝としてその拠点性はますます高まっています。また、首都直下地震等の災害時には東京一極集中のリスクを軽減するバックアップ拠点としての役割をさいたま新都心と連携し果たすことが期待されています。しかし、防災面では大宮駅東口周辺には狭い道路や老朽化した建物が多く大規模災害に対する備えが課題となっています。

こうした現状を踏まえ「東日本の玄関口」としてふさわしいまちづくりに向け、現在、大宮駅グランドセントラルステーション化構想の策定に取り組んでいます。

今後は駅に連結するシンボリックで快適に歩ける都市軸や、多様な交流を促す交流広場、駅の東西を結ぶ連結道路の整備を開発街区と連携して行うことで、都市の防災性や交通の要衝としての機能を強化し、魅力あるまちづくりを推進していきます。



大宮駅東口に直結する交流広場とシンボル都市軸(中央通りのイメージ)パース



東西道路のイメージパース
※パースはあくまでイメージであり、確定しているものではありません

3.26 第2回 首都圏対流拠点シンポジウム

大宮駅グランドセントラルステーション化構想から始まる、新たな対流拠点づくりをテーマにシンポジウムを開催します。

時間 ● 13:00~16:00

場所 ● 大宮ソニックシティ 小ホール

詳しくは市HP

第2回首都圏対流拠点シンポジウム

国の計画において、災害時のバックアップ拠点として位置付けられたさいたま市では、防災の最前線基地としての役割を果たすことが期待されています。
今回の特集では、特にさいたま新都心周辺に立地する施設の災害時の備えや活動体制を紹介するとともに、さいたま市で推進する防災の取組の最新事情をお知らせします。

進む! 防災の最前線基地



③ 国土交通省関東地方整備局

国の機関として、地域のニーズや課題に応じて河川や道路、港湾、空港、国営公園、官庁施設などの社会資本の整備や維持管理を行っています。また、屋上には、大規模災害時に使用できるさいたま広域防災拠点ヘリポートがあります。



① さいたまスーパーアリーナ

埼玉県の地域防災計画における防災活動拠点施設と位置付けられています。食料や生活必需品など救援物資の備蓄を行うほか、大規模災害時にはさいたま市や他地域からの臨時避難所や交通災害等による帰宅困難者の一時滞在施設としての機能を備えています。



④ 大宮警察署

災害発生時に、被災者の救出・救助活動にあたる警察活動の拠点となる施設。主に北区・大宮区・中央区を管轄しています。平成29年11月には建物の老朽化などに伴い、庁舎を新築。さいたま新都心へと移転しました。



② さいたま赤十字病院

埼玉県が指定した災害拠点病院としての役割をもち、災害時には知事の要請により傷病者の受け入れや医療救護班の派遣等を行います。専門のトレーニングを受けたDMAT(災害派遣医療チーム)は、災害発生後概ね48時間以内に活動を展開します。



⑤ (仮称)さいたま新都心公園

平成30年度完成予定

市民の憩いの場であるとともに、災害発生時には地域住民等が一時的に避難する場所として、災害時に利用できるマンホールトイレや、テントで覆うことで救護や物資保管の場として利用できる防災パーゴラなど様々な災害用設備の設置を予定しています。また、みどり豊かな空間を有する見沼田んぼ内のセントラルパーク基本構想などとの連携を見据え、整備を進めています。



施設配置予定図